

四七八番

かけまくも あやに恐し 我が大君 皇子の命 もののふ
 の 八十伴の男を 召し集へ あどもひたまひ 朝狩に
 鹿猪踏み起こし 夕狩に 鶉雉踏み立て 大御馬の 口抑
 へとめ 御心を 見し明らめし 活道山 木立の茂に 咲
 く花も 移ろひにけり 世の中は かくのみならし ます
 らをの 心振り起こし 剣大刀 腰に取り佩き 梓弓
 鞆取り負ひて 天地と いや遠長に 万代に かくしもが
 もと 頼めりし 皇子の御門の 五月蠅なす 騒く舎人は
 白たへに 衣取り着て 常なりし 笑まひ振舞 いや
 日異に 変はらふ見れば 悲しきろかも

反歌

四七九番

愛しきかも 皇子の命の あり通ひ 見しし活道の 道は
 荒れにけり

四八〇番

大伴の 名に負ふ鞆帯びて 万代に 頼みし心 いくづく
 か寄せむ